

福祉コミュニティエリア整備事業 企画提案書 (概要版)

企画提案者 (代表法人) 医療法人社団善智寿会

個々の多様性に合わせて、お互いを理解しあい、支え合うことができる地域を。そして、生まれ育った街で最期まで安心して生活できる地域を。

【グランド・コンセプト】

住まう人みなそれぞれが自分らしく暮らし、そして互いに支え合う地域づくり

【エリア名称】

函館日吉コミュニティエリア
愛称：「コンテ日吉」

方針1 住まいや医療・介護・予防・生活支援のサービスを一体的に提供できるまちづくり

- 地域包括ケアシステムの考え方にに基づき、住まいや医療、介護、予防、生活支援のサービスが一体的に提供される仕組みづくりを行います。
- 健康増進、疾病の発症予防のための支援を中心に、専門家や関係機関の協力のもとで、住民と一緒に実施していきます。
- 在宅療養支援診療所を中心に、住み慣れた地域で継続した医療や介護が受けられる体制、24時間安心した生活が送れる医療や介護サービスの提供を行なっていきます。

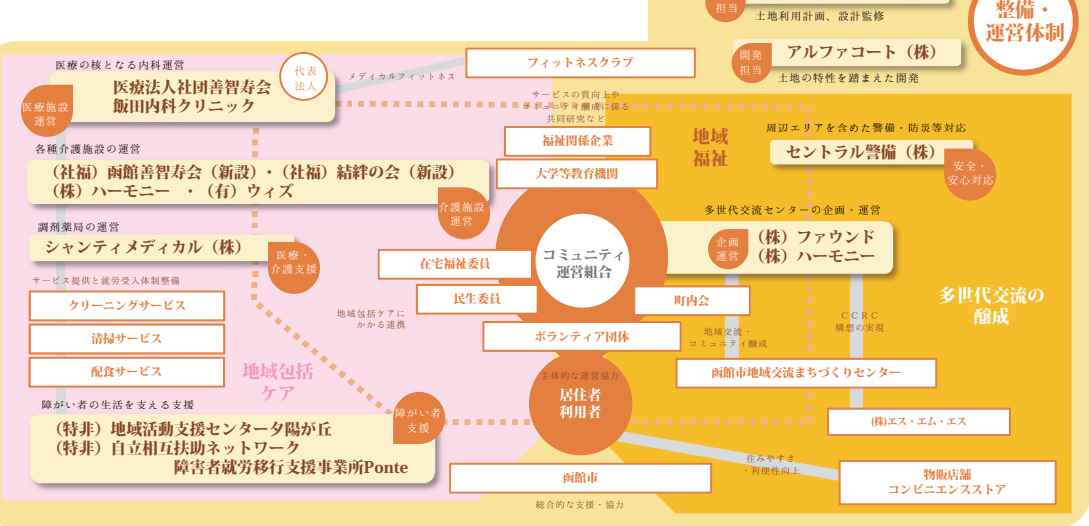
方針2 年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり

- 子供からお年寄り、子育て世代などが自然と交流できるまちづくりを行います。
- 多世代交流施設で市民参加型の企画などを行い、高齢者、障がい者、多世代が交流できるコミュニティの形成を行います。
- 顔の見える関係性の中で防災・防犯にも取り組み、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

方針3 支え合い、みんなが活躍できるまちづくり

- 個人の特性や多様性を認め合いながら、相互に支え合い、住民が主体となって活動できるよう、環境整備と仕組の運用に取り組んでいきます。
- 各種施設の運営や様々な企画に、地域住民等に積極的に参画してもらい、住民主体の地域福祉を実践していきます。
- 地域住民、ボランティア、社会福祉法人、各事業者が地域の一員として支え合い、密接なコミュニティを構築していくための仕組みづくりを行います。

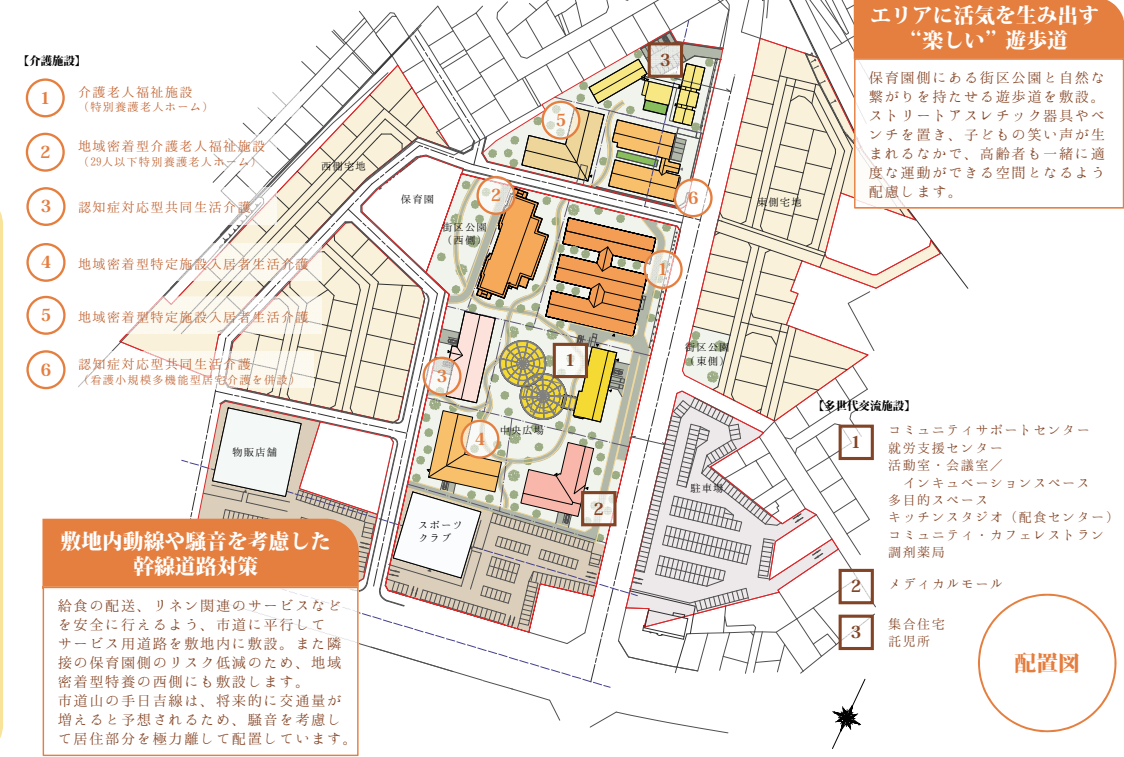
さまざまなニーズに応えられるエリア管理に必要な整備・運営体制を「地元重視」で構築。



緑豊かな中央公園を開くように、各施設を配置。だれもが安心して、こころ豊かに過ごすことができるようバリアフリーに配慮した空間づくりを。そして、にぎわいが生まれる工夫を随所に。



鳥瞰図



住まい

- ・ライフスタイルに合わせて多様な世帯が住むことができる**宅地開発**。
- ・子育て世帯想定**の宅地は**、コンパクトで購入しやすい**区画に分散**。
- ・高齢者**想定**の宅地は**CCRCの体験入居受入の拠点**に。

ターゲット	住戸数・人口等	一般的な区画面積及び分譲価格帯
子育て世帯 高齢世帯	宅地エリア 84区画、250人 福祉エリア 14戸、24人	区画面積 180㎡ 分譲価格 520万円台

道路・公園・その他

- ・エリア内の憩いの場となる中央公園を中心に配置し、公園内と外部との動線を確保します。
- ・配食サービスやリネンサービスなど、介護施設に不可欠なサービスが円滑に行えるよう、エリア外周にサービス用道路を敷設します。

- ①中央公園 ②遊歩道 ③ストリートアスレチック器具 ④エリア内サービス用道路

地域包括ケアシステムを構築するために展開するソフト事業

誰もが同じ地域で、安心して長く生き生きと暮らすための多様なサービスを提供

- ・365日、24時間体制の医療・看護サービス提供を実現
- ・在宅を基本としつつ、状況やニーズに合わせた介護施設を活用し、住み替えによる同一地域居住を実現
- ・施設や地域の情報を一元管理し、適切なケア・対応につなげる体制を整備
- ・医療施設や隣接するフィットネスクラブと連携し、健康増進にかかる様々なメニューを提供
- ・ボランティア養成を進め、様々な場面でサポートしてもらい、地域一体で住み良い地域づくりを推進

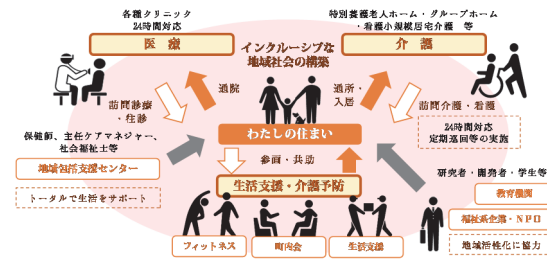
世代や特性を越えた多様な交流が生まれる企画を実施

- ・多目的スペースなどを活用し、エリア内外の方に向け集客交流を目的としたイベント等を開始
- ・障がいや認知症その他、様々な特性に対する理解を促し、皆で支え合っていくための場を創出
- ・子どもや学生などが集まる機会を積極的に創出し、誰もがエリア内を活性化

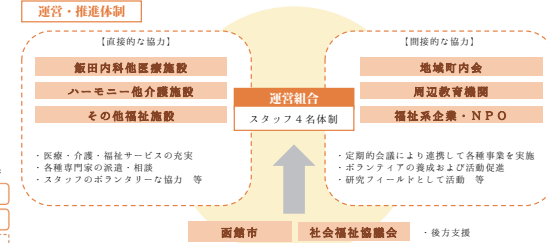
多世代交流施設を拠点として、多様な人材を運営組合がコーディネート

- ・多世代交流施設をコミュニティの中核として、エリア内の多様な施設を効果的に活用
- ・専門性のある人材やボランティアなどを、情報発信センタースタッフが適切にコーディネート

【包括ケアシステムのイメージ】



【ソフト事業の運営・推進体制・運営資金確保方策】



多世代交流施設

施設が有する機能

【名称】交流センター「コンテ日吉」

- ①**地域コミュニティの拠点（集う場所としての機能）**
会議室やイベントスペースのほか、飲食スペースなども設置し、エリア内外の人が出入りするコミュニティの拠点として整備します。
- ②**地域社会のコーディネート（交流を生み出す企画・運営機能）**
ボランティア育成のほか、周辺地域の方も含めて楽しく過ごせるイベントなどを企画・運営し、エリアの人的交流を活性化させます。
- ③**地域福祉コンシェルジュ（専門アドバイザーとしての機能）**
福祉の専門アドバイザーとして多様な福祉相談に対応します。関連組織と連携しながら、ワンストップで対応する窓口となります。
- ④**高齢者・障がい者就労、ボランティア受入窓口（生きがい創出機能）**
就労支援センター機能を併設し、高齢者や障がい者の就労支援や、健常者の福祉ボランティアの斡旋などを行います。

子育て世代が安心して暮らせるよう、託児スペースや託児所などを設置します。また、隣接する「兩館福ちん保育園」と連携・協力し、多世代交流施設等を活用しながら、エリア内の高齢者や障がい者との交流などを図ります。

子育て

医療・介護・障害・福祉サービスなどの施設

・健康増進的な視点も含め、多様な世代が日頃から健康を保つのに必要な医療サービスを提供できる施設を設置します。
・24時間体制で往診できる体制を構築します。また、訪問看護や薬局による在宅医療支援なども提供し、「いつでも」「どこでも」適切な医療サービスを提供します。

・「ユニットケア」を提供し、個別的な対応をしています。
・診療所、訪問看護との連携により、医療的ニーズが高い利用者の受け入れ、看取り介護の提供が可能な施設運営を行います。
・心身の状況に応じた「住み替え」をすることを可能とします。
・「福祉避難所」としての機能を満たします。

・高齢の方や障がいのある方などに対するサービスを提供します。
・障がい者の就労支援情報の提供やマッチングなどを行います。
・エリア内での障がい者・高齢者雇用を積極的に推進します。

健康づくり・介護予防・生活支援サービスなどの施設

・高齢で身体が不自由な方や、家事・育児・仕事に手一杯な方など、生活の中で何らかの助けがほしい方に、多様な生活支援サービスが提供される環境整備に努めます。
・管理栄養士やレストランシェフなどが中心となってメニューを考案し、地域の人たちに「美味しい」そして「健康な」食を提供します。
・健康運動指導士や理学療法士の指導のもと、日々の運動・身体活動を積極的に促して、地域住民の健康増進を推進します。

- ①家事・自費介護サービス（拠点は未定）
- ②配食・宅配・レストランサービス（キッチンスタジオ／コミュニティ・カフェレストラン）
- ③フィットネス等身体活動促進サービス（フィットネスクラブ）

- ①内科クリニック（飯田内科クリニック）
- ②小児科クリニック（誘致予定）
- ③歯科・眼科クリニック（誘致予定）
- ④調剤薬局（シャンティメディカル）
- ⑤フィットネスクラブ（飯田内科クリニック）

【入居相談への適切な対応・エリアとの関わり方】

- 広域での地域福祉コンシェルジュ対応
- 地域社会の福祉コーディネート機能による連携・共助

- ①障がい者就労移行支援（自立相互扶助ネットワーク）
- ②一般就労支援およびボランティア養成・斡旋（運営組合）

生活利便施設

・日常的な買い物ができる施設を誘致するなど、利便性が高まるよう配慮します。
・「はたらく」ことを通じて生きる喜びを感じてもらえるよう、高齢者や障がい者の就労支援と連動し、雇用の受け皿となりうる施設を積極的に誘致します。

- ①物販店舗 ②コンビニエンスストア
- ③クリーニング ④セキユリティ会社
- ⑤清掃会社

生涯活躍のまち（日本版CCRC）構想の取組

【基本的な考え方（共通必須項目・選択項目）】

	共通必須項目	選択項目
入居者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①入居希望の需要把握 ②健康な段階からの入居を基本としつつ、どのような方も柔軟に受入をします。 ③入居者の年齢 ④入居者の年齢 ⑤地域社会・交流・連携 ⑥自立した生活ができる居住環境 ⑦生活全般のコーディネート 	<ul style="list-style-type: none"> ①入居希望の住み替え形態 ②入居者の所得等 ③入居者の属性 ④空き地 ⑤収入増大サービス ⑥多様な専業主体の参画
立地・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ⑧入居者の健康状態 ⑨健康な段階からの入居を基本としつつ、どのような方も柔軟に受入をします。 ⑩入居者の属性 ⑪入居者の年齢 ⑫地域社会・交流・連携 ⑬自立した生活ができる居住環境 ⑭生活全般のコーディネート ⑮移住促進への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦介護サービスの充実 ⑧地場の広がり ⑨地域資源の活用 ⑩多様な専業主体の参画 ⑪移住促進への参画 ⑫生活全般のコーディネート ⑬収入増大サービス ⑭多様な専業主体の参画
サービス提供	<ul style="list-style-type: none"> ①障がい者就業移行支援（自立相互扶助ネットワーク） ②一般就労支援およびボランティア養成・斡旋（運営組合） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑯多様な専業主体の参画 ⑰収入増大サービス ⑱多様な専業主体の参画 ⑳多様な専業主体の参画
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ④福祉コンシェルジュ ⑤地域福祉支援センター ⑥フィットネスクラブ ⑦調剤薬局 	<ul style="list-style-type: none"> ①入居希望の住み替え形態 ②入居者の所得等 ③入居者の属性 ④空き地 ⑤収入増大サービス ⑥多様な専業主体の参画 ⑦収入増大サービス ⑧収入増大サービス

【KPIの設定】

KPI	当該エリアへの首部困からの視察人数 (体験ツアーを含む回数)	移住者数 (市外からの転居者数)	シニアライフプランの作成数
当面の目標値	20人 (平成31年度実績)	50人 (平成31年度実績)	30件 (平成31年度実績)

【移住促進に向けた具体的な取組】

STEP1 知ってもらう

最初のステップとして、このエリアで実現可能なシニアの暮らし方をわかりやすく伝えるホームページや冊子などを作成し、函館市や函館市地域交流まちづくりセンター、北海道などと連携しながら、外部に発信していきます。

STEP2 来てもらう

高齢社会に適した様々な情報サービスを運営する株式会社エス・エム・エスや、函館市地域交流まちづくりセンターなどと連携して、当該エリアの紹介や移住促進に向けた取り組みを積極的に展開していきます。
また、両館の高いブランド力を活用し、観光を兼ねた「移住体験ツアー」を企画し、エリア内に数日滞在してもらい、周辺施設の状況や体制についての説明などを受けながら、定住をイメージしてもらうような取組も検討していきます。

STEP3 活躍してもらう

移住・居住をされた方、あるいはしたいと考えている方に対し、スタッフがヒアリングを行いながら、本人の考える希望や期待、健康状態や嗜好などを踏まえ、「シニアライフプラン」を作成し、目標と計画を持って当該地域で生活できるよう、アドバイザーやサポートを行うことができる体制を構築します。